

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 1 月 28 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471503171		
法人名	陽気株式会社		
事業所名	グループホームようき法成寺		
所在地	広島県福山市駅家町法成寺2808-1 (電話) 084-949-3230		
自己評価作成日	平成27年12月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3471503171-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年1月21日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>事業所目標を立て、目標達成に向けチーム一丸となって取り組んでいること。また日々の職員との会話や職員同士の会話を大切にし個々の思いを皆で受け止め、直面している問題を勉強会や会議で検討し、チームで統一したケアを目指していること。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>「良かったを増やす」との法人理念と年度方針が法人から提示され、それに基づき職員相互の話し合いのうへ「事業所目標」を定め、目標達成への進捗状況を月2回の話し合いで検証することにより、利用者・家族の希望に沿った支援を提供している。今年度は、事業所目標達成の手段として、事務所ロッカー横に掲示板を掲げ、そこに「気付きメモ、ヒヤリハット、改善提案」の3項目に関するメモを職員がその都度貼り付け、月2回そのメモ1つ1つについて話し合う事で課題の共有に努めている。その結果として①介護計画が日々の業務の中心となっている。②職員全員の意思統一と知識・技術の個人差の解消が図られている。③現状に満足する事無く、常に挑戦し改善していく意欲がある。の3点で顕著な向上と前進が見られ、職員（特に新人）の成長と生き活きとした姿が見える。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	全職員が会社全体の理念を踏まえた上で、行っていきたい介護像について話し合い、地域の中でより良く暮らせるよう、事業所独自の目標を作成している。	法人より、理念＝「良かったを増やす」と年度方針の策定を受け、事業所職員間の話し合いの下「年度目標」を定め、法人の全体会議で発表している。理念の共有と実践、及び事業所目標達成の為に、毎月2回話し合いの場を設けて、それらの進捗状況と課題を検証し、対策を講じている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日々の挨拶を交わしている内、最近ではご近所の方から先に気付き、挨拶をしてくださる機会も増えてきた。野菜などを持ってきてくださる事もあり、交流する機会は安定してきている。	最近では、地域との交流が以前に比し薄らいでいる感があるので、この度管理者が交代した機会を捉え、常日頃の挨拶、町内会会員としての役割、積極的な行事参加、中学生の体験学習の受け入れ等の機会を活かして、更なる地域との親交を深めるよう取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	直接地域の高齢者の暮らしに役に立っているとはいえない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で取り上げられた内容はカンファレンスなどで報告し、職員全員で検討を行い、サービスの改善・向上に活かしている。	運営推進会議は、利用者・家族・民生委員・地域住民・職員の参加で開催され、主にイベント（敬老会・家族会・食事会）の報告が主体となっている。	本来の運営推進会議の主旨を今一度確認し、定期的開催・参加メンバー・議題等を検討し、充実した運営推進会議が開催される事を期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の開催する介護保険事業所説明会などに積極的に参加し、サービス向上に努めている。	各種報告・申請等は、法人の事務局と介護支援専門員が主たる窓口として対応している。管理者は、市が主催する説明会、研修会等に積極的に出席し、市の担当者との交流を深めると共に各種相談や現況報告を行い、お互いの協力・信頼関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束についての勉強会は定期的に行っており、研修に参加する場合もある。学んだ内容をカンファレンスなどで発表し、職員全員で理解、認識し、ケアにつなげている。玄関、階段の施錠は夜間のみ行っており、日中は開放している。</p>	<p>年2回開催される研修会にて、身体拘束をしないケアの徹底が図られ、職員は日常的に細心の注意を払っている。例えば、ある利用者が排泄用パッドをどこでも取りだしてしまい、周囲からも又、衛生上も問題なので対処方法話し合い、ホック付きのスラックスを使用して、ホックに手がかかると即座にトイレ・個室誘導をして対処する事が話し合われた。ホック付きスラックスは「身体拘束とならないか?」との職員意見が発せられ、職員間で話し合い、家族に事情報告と了解を得た上でスラックス使用に至っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会で学ぶ機会をもうけ、各職員に意識づけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>事業所の勉強会などで学ぶ機会をもうけている。未だ必要性はないが、今後活用していきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>細かく説明を行い、疑問があればその都度お聞きし、理解、納得して頂けるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置すると共に、面会時、具体的に何か要望や意見がないかお聞きしている。運営推進会議や家族会などで頂いた意見は、職員全員に報告し、以降のケアに活かしている。</p>	<p>家族からの意見や要望は、面会やイベント案内時、電話等の種々の機会を捉え、何うよう努めている。併せて、何でも言えるような職員と家族の信頼関係づくりや、利用者の日常の生活ぶりを毎月の「ようき法成寺通信」で伝え、意見が出し易いよう工夫されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個人面談の際やカンファレンス、日々の関わりの中で、意見を聞く機会をもっている。	日々のケアの気付きや改善提案は、その都度掲示板にメモとして貼り付け、月2回の話し合いで共有し、実践に活かされている。法人代表者が機会を見つけては、職員一人ひとりに「何か困っている事とかアイデアは無いですか？」と問いかける事が、職員の使命感とモチベーションの向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務状況や胸の内を語りやすいよう、日々の会話を大切にしている。定期的に面談や必要に応じて話し合いを行う機会をつくり、改善しながら働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部の研修に行く機会を設けたり、事業所内や会社全体の研修を行うことで、職員のスキルアップを行っている。また、個人の教育計画をたて、達成に向けて進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の研修に参加したり、実習で知り合った同業者とのつながりを大切にし、サービスの質を向上させていけるよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人に安心して日々過ごしていただけるよう、思いをくみ取ると共に、安心して胸のうちの話をいただける関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご利用者とともに、ご家族に心から信頼していただけるよう、気軽に何でも言える雰囲気作りを心掛けている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ケアマネージャーと連携を図り、その時必要なケアサービスを見極めていけるよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご利用者を人生の先輩として尊敬し、介護される一方の立場に置かず、一緒に生活するなかで、喜怒哀楽を共に感じあえる関係づくりを築けている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご本人の状態や気持ちに変化があった場合は、面会時、又は電話などで報告し、ご本人との絆を大切にしながら、共に支えていく関係を築けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>個々の馴染みの人や場所などを職員全体が把握し、面会時に談笑しやすい環境づくりや、外出時に馴染みのある場所へお連れしたりと、支援に努めている。</p>	<p>「こだわりシート」活用による利用者の情報を基に、月1回の墓参りや行きつけだったお店、及び今までに住んでいたところに出かけ、これまでの習慣が途切れないよう支援し、友人・知人来訪時には、これからも引き続き面会に来て頂けるよう、様々な配慮をされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の関係を把握し、気の合うご利用者同士が、時間を共有できる環境づくりに努めている。うまくかわることが難しいご利用者には、職員が傍に寄り添い、支えあえるような関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了されたご家族が、職員やご利用者に話しにこられたりと、いい関係が築けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	面会時に、個々の思いや暮らし方の希望・意向などをご家族や、日々の暮らしの中でご本人から聞き取り把握して、本人本位に努めている。	日々のケアを通じて、思いや意向の察知に努め、「こだわりシート」の活用で、情報の蓄積と職員間での共有を行っている。意思表示が困難な利用者には、家族や友人・知人から情報を得るよう努め、利用者の意に即したケアの在り方に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントの段階で確認を行い、その後も面会時にご家族、ご本人よりお聞きしたことを記録に残し、全員で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の一日の過ごし方や心身状態などを、口頭や記録などで細かく残し、全員が把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご本人、ご家族から要望等についてお聞きし、全員で共有後、随時介護計画を立てている。</p>	<p>職員は介護計画を熟知し、毎月のカンファレンスでモニタリング結果と意見具申を行い、ケアマネージャーはその職員意見と家族・医師・関係者の意見を総合的に勘案して、介護計画が利用者にとって現状に即した最善のものとなるよう取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子やケアの内容などを細かく記録に残し、口頭でも情報を伝え合い、職員全員が情報を共有ながら、実践や介護計画書の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>随時ご本人やご家族のニーズを把握、理解し、全職員で前向きに検討し、支援、サービスを行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>趣味や様々な活動に応じていけるよう、地域の行事に参加したり、ボランティアに来ていただいたりしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>主治医及び、ご家族またはご本人が希望される専門の医療機関など、個々にとって適切な医療をうけられるよう支援している。</p>	<p>入居時殆どの利用者が、近隣の協力医（外科・内科）に主治医を変更されている。協力医は毎週水曜日に往診に来られ、毎月1回個別診察に見え、救急時は24時間対応可能。眼科・歯科等の専門医の対応は職員が行い、家族、関係者への結果報告も的確になされ、適切な医療支援が為されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>施設内の看護師は日々観察を行っており、係りつけの医療機関の看護師とも日々相談やアドバイスをいただきながら、連携をとって支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された際は度々面会に行き、状態の把握・病院関係者から情報収集を行ったり、ご家族と連絡を取り合いながら情報の交換を行うなど、早期退院できるよう努めている。又、退院前には病院のカンファレンスにも参加している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>出来るだけ早い段階から主治医、ご家族と連携を密にし、全員で取り組んでいくようにしている。</p>	<p>利用時に、重度化や終末期に向けた方針を説明し、同意書を作成している。又、平素から看取りや終末期に関する勉強会を重ね職員教育を行い、状況に応じて、主治医・家族と意見を交え、最善策を講じている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>一年に一回は訓練を行っている。そのほか個々で講習会に参加するよう促したり本で読んだり、それぞれ知識の向上に努めている。又、個々で勉強したことはカンファレンスで発表し、全員で情報を共有している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>避難訓練で訪問したり、地域の方々に対して、ご協力も頂けるようお願いしている。</p>	<p>年2回（うち1回は消防署立ち会いの下）避難訓練を実施しており、法人本部を軸に管理下の各事業所との協力体制が構築されている。玄関口には防災グッズも置いてあるが、2階建てで複雑な間取り、ガスコンロの仕様等を考慮して、いざと云う時には素早く行動に移せるよう、平素の訓練の積み重ねや近隣地域の協力体制確立に取り組まれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の人格を尊重し、職員全員で声掛けや対応などに注意している。事業所内での勉強会も行っており、カンファレンスなどで対応の統一を行っている。	利用者に対する人格尊重の姿勢は、平素の言葉使いや態度に表れるので、家族や第三者から疑問に思われる様な事がないよう、常々話し合っている。また、利用者の尊厳確保と入浴時や排泄に関する事等をはじめ、プライバシー保護に関しても充分配慮した取り組みが為されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員主体にならないよう十分に気を配っている。伝わりにくい方には選択できるような声掛けに変えたりと、出来るだけ本人に選択していただいたり個々に合わせて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務、職員の都合を優先せず、個々のペースを大切にし、ご本人の希望に沿った一日を過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪型、服装など、ご本人に選択していただけるよう努めている。難しい方には色の好みやその日の気温などをお伝えし、複数の中から選択していただいたり、個々に合わせて支援している。又、昔馴染みの理髪店などを希望される場合はお連れしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物と一緒にいき、好物やその日に食べたいものをお聞きしている。又、メニューも一緒に考え、食事作りも手伝っていただきながら、食事が楽しみなものになるよう努めている。	日々のメニューを考え、買い物、調理、配膳等、一連の食事に関する流れには、職員と利用者が共に行い、調理の臭い・音から食事に対し期待感が湧くよう取り組んでいる。時にはイベントで家族や近隣の住民といった、いつもと異なる賑やかな雰囲気、外食等の変化をつけて、楽しく食事が出来るように工夫を凝らしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日記録に残し、個々の平均値の把握もしている。個々に応じた形で対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>個々に合わせた方法で、口腔ケアを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンや習慣を把握し、排泄の失敗により、自尊心が傷つかないよう注意しながら、できるだけ自立した排泄を行っていただけるよう支援している。</p>	<p>トイレでの排泄と布パンツ使用を基本に、個別の排泄パターン、習慣を把握し、適切なトイレ誘導を行う事で、日中は約8割弱の方が布パンツで過ごされている。排泄の自立支援は困難なテーマの1つであるが、職員は常に利用者に目を向け、気配りをしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>すぐに薬に頼ることはせず、腹部のマッサージや食物繊維の含まれる食品を多く献立に入れたり、エクストラバージンオイルの使用や、牛乳や豆乳を飲んでいただくなど、水分摂取の配慮などに努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>希望のある方は、極力希望通りに対応している。訴えの少ない方も曜日や時間など職員の都合だけでなく、ご本人の思いや体調を大切にしている。</p>	<p>一般家庭の浴室と同じ造りで、個浴、1日3名、午後2時～午後5時の間に入浴されるので、基本的には週2回～3回の入浴となっているが、利用者の希望には極力浴えるよう努めている。「湯船に浸かり、寛ぐ」事を重視し、入浴剤やゆず湯、菖蒲湯等も活用されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>就寝時間は決まっておらず、個々の希望される時に休んでいただいている。訴えのない方は、表情を観察したり、声掛けを行い、ご本人が気持ちよく休んでいただけるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬については参考資料を置いたり、処方箋などで把握し、全職員で共有している。新しく処方された薬は、口頭や記録などに残し、全員が内容を把握できるよう努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>今までの生活歴をご家族、ご利用者から伺い、それを活かせる環境づくりや、楽しめる時間を設け、気分転換をしていただけるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>地域の方の協力はお願いしていないが、ご本人の外出希望がある日、または天気の良い日には出かけている。遠方や個別になる場合は、ご家族と相談し、協力を得て行っている。買い物は全てご利用者と共に行っている。</p>	<p>日常的には、周辺の散歩や買い物等に出かけ、利用者の希望に沿って馴染の場所や人に会いに出かけたり、行事やイベントを行い、気分をリフレッシュしている。個別に釣りの好きな利用者や海辺・岸壁に釣りに行く事もある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>ご家族、本人よりご希望のある方は所持して頂き、自由に使えるようにしていただいている。普段はお預かりしているが、買い物時に所持して頂き、一緒に買い物に行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望がある場合は、自ら電話で話しをしていただいている、手紙は職員が投函し、安心していただけるようご本人にお伝している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節のものを飾ったり、四季を感じていただけるよう努めている。冷暖房器具の調節、カーテンの調整などに配慮し行っている。常にご利用者の立場で考えている。</p>	<p>適度な広さのリビングには、ソファやフットマッサージ器が置かれ、テレビを見ながら談笑している。食事の際の座る位置にも配慮し、気の合う利用者同士でのんびりと1日を過ごせるよう工夫されている。それぞれの季節の飾りつけも行い、四季を感じられるように配慮している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>色々な場所に机や椅子を置いており、ご本人が過ごしやすい空間づくりに努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居心地の良い空間で過ごしていただけるよう、使い慣れたものや馴染みのある家具を、ご家族に持ってきていただいている。</p>	<p>鉄筋2階建てを改造された事業所は、畳敷きの和室・フローリングの洋室が在り、共に押し入れと空調が準備されている。寝具、筆筒、テレビ、カレンダー等、使い慣れた物や愛着のあるものを持ち込み、各々が落ち着いて過ごせるような部屋作りがされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>できることはしていただき、できないところは手伝わせてもらっている。ご本人が不快にならないよう注意し、自然な声掛けや傍で見守りをさせていただき、トイレや居室などは一目で分かるよう表示している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームようき法成寺

作成日 平成28年2月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		参加メンバーや運営推進会議の内容に不十分な点がある。	運営推進会議を適切かつ定期的に開催し、意義のあるものにする。	定期的を開催することを町内会の集会で説明させてもらう(3月27日予定)。また、地域包括へも最初の運営推進会議(4月3日予定)への出席を検討してもらう。定期的に運営推進会議を実施し、みなさんに継続して参加していただく。	1年計6回開催
2		その日の利用者との関わりの中で、声掛けや身体介助(ボディータッチ)にまごころがこもるため。	日々、自分の行動にまごころがこもっていたか省み、明日の自分の行動にまごころを込める。	振り返りシートを作成し、日々省みる習慣をつける。	計画を経て、1年間実施。毎月管理者の確認。
3		各スタッフの当たり前のレベルが異なると、提供しているサービスに違いが出てくるため。	グループホームようき法成寺の当たり前を明確にし、全体のレベルを向上させる。	個別教育計画を作成し、計画通り実施する。	計画を経て、1年間実施。毎月管理者の確認。
4		チームワーク力を向上し、働きやすい職場環境にする。	チームワーク力を向上し、働きやすい職場環境にする。	業務分担表を導入し、チームで協力して業務が進めるようにする。	計画を経て、1年間実施。毎月管理者の確認。
5					
6					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。